

本資料は 2019 年 4 月 24 日にチューリッヒで発表されたメディアリリースの翻訳版（要旨）です

## 2019 年第 1 四半期業績

### 厳しい市場環境にもかかわらず、堅調だった 2018 年第 1 四半期を上回る純利益を計上

#### 2019 年第 1 四半期のハイライト

- 株主帰属純利益は 7 億 4,900 万スイス・フランと、四半期としては 2015 年第 3 四半期以降の最高益となりました。
- 当グループの報告ベースの税引前利益は 10 億 6,000 万スイス・フランとなりました。厳しい市場環境下においても堅調な業績を維持する事業構成を反映し、10 四半期連続で前年同期比での増加となりました。
- 資産の流入は継続し、ウェルス・マネジメント事業における新規純資産の合計は 96 億スイス・フランで、当四半期における年率換算の新規純資産増加率は 5% となりました。当四半期末時点の同事業の運用資産は 7,861 億スイス・フランと過去最高を記録しました。
- 第 1 四半期の新規純資産合計は 358 億スイス・フランと堅調で、このうちスイス・ユニバーサル・バンク部門のコーポレート & インスティテューショナル・クライアントが 276 億スイス・フランを占めました。運用資産合計は 1 兆 4,300 億スイス・フランと、前四半期末から 6% 増加しました。
- グローバル・マーケッツ (GM) 部門は、3 年にわたる抜本的なリストラクチャリングの後、第 1 四半期の税引前利益が 2 億 8,300 万米ドルとなり、規制資本収益率は 9% となりました。これらの結果は、厳しい市場環境下でのリストラクチャリングによってもたらされる初期効果の一部を反映しています。
  - GM 部門の株式の販売及び取引収益は 4% 増加しました。
  - GM 部門の債券の販売及び取引収益は 2% 減少しました。
- インターナショナル・トレーディング・ソリューションズ (ITS) 事業の純収益は、前年同期比 23% 増となり、グローバル・マーケッツ部門、スイス・ユニバーサル・バンク部門およびインターナショナル・ウェルス・マネジメント部門の効果的な連携と、超富裕層顧客に対機関投資家と同質のソリューションを提供する当グループの統合的アプローチの利点を実証されました。
- 生産性と効率性に関する規律を維持することで、営業費用は前年同期比 6% 減の 42 億スイス・フランとなりました。
- 資本基盤は底堅く、CET1 比率は 12.6%、ティア 1 レバレッジ比率は 5.2% と、それぞれ 2018 年第 4 四半期比で横ばいとなりました。

- 有形株主資本利益率 (RoTE) は、収益に対する厳しい逆風にもかかわらず 8% を達成しました。
- 1 株当たり有形純資産価値は前年同期比 4.3% 増の 15.47 スイス・フランとなりました。
- 2019 年 1 月に自社株買いを開始しました。2019 年度の最低目標額である 10 億スイス・フランに対して、第 1 四半期には 2,130 万株 (2 億 6,100 万スイス・フラン相当) を買い戻しました。

**クレディ・スイス最高経営責任者 (CEO) のティージャン・ティアムは次のように述べています：**

「3 年に及ぶストラクチャリングの終了後初めてとなる当四半期は、厳しい市場環境下にありました。それでも当グループは 5 四半期連続で黒字を達成し、純利益は前年同期比 8% 増の 7 億 4,900 万スイス・フランとなりました。

今や当グループはより低いリスク特性を備え、資本基盤は強化され、コスト基盤は構造的に低減された中で事業を運営しています。強靱で適応性の高い当グループのビジネスモデルにより、市場環境が厳しい局面においても利益を確保することが可能になり、市場環境が改善する際には上振れ余地が期待できます。第 1 四半期は各月で明確な特徴が見られました。1 月は厳しい月となり、2 月は回復基調にあるも限定的、続く 3 月は堅調で、過去 39 カ月間で 2 番目に収益の高い月となりました。

ウェルス・マネジメントの事業基盤は、厳しい四半期においても底堅さを見せました。同事業における第 1 四半期の利益合計は、前年同期比で横ばいとなりました。運用資産においては、過去最高となったアジア太平洋部門のプライベート・バンキングの 2,190 億スイス・フランを含め、7,861 億スイス・フランと過去最高を記録しました。運用資産の伸びは、新規純資産が引き続き年率換算で 5% 増加したこと、および市場環境が好転したことによるものでした。

ITS 事業では、多くの画期的な取引を実行し、超富裕層顧客の複雑なニーズを満たすため対機関投資家と同質のソリューションを提供するなど、当四半期もかなりの進展が続きました。これにより、前年同期比で取引収益を伸ばすことが可能となりました。

強力な資本基盤を備え、10 四半期連続で税引前利益の前年同期比での増加を達成する中、ストラクチャリングの効果が現れています。順調に進捗する自社株買いプログラムと持続可能な現金配当の復活は、当グループが持続的な成長を目指す堅固な基盤を示すさらなる証左となっています。

収益性があり、法に準拠した質の高い成長を達成するという当グループの事業戦略は、長期的な株主価値を生み出すと考えています。」

## 主要指標

(単位：百万スイス・フラン)

	2019年第1四半期	2018年第1四半期
<b>純収益</b>	5,387	5,636
うちウェルス・マネジメント関連とインベ ストメント・バンキング&キャピタル・マーケ ッツ (IBCM) 部門	3,717	4,025
うちマーケッツ事業	1,761	1,874
<b>営業費用合計</b>	4,244	4,534
<b>税引前利益</b>	1,062	1,054
<b>株主帰属純利益</b>	749	694

## 見通し

第1四半期末にかけての良好なモメンタムは、4月に入っても概ね続いています。しかし、2019年末までの業績に関する確固とした結論を現時点で導き出すのは時期尚早です。地政学的、またマクロ経済的にも懸念は依然として存在するものの、その影響は後退し始めており、顧客の自信は徐々に戻りつつあると考えています。

ウェルス・マネジメント事業とインベストメント・バンキング事業双方の取引パイプラインは強固で、年が進むにつれて末端市場はより前向きなものとなっています。

主要なウェルス・マネジメント事業基盤の拡大に重点を置くという当グループの事業戦略は、強固なインベストメント・バンキング事業を組み合わせることで、効果を発揮しつつあります。当グループは2019年通期およびそれ以降においても、利益を高め、株主価値を増大させることに引き続き注力していきます。2019年第2四半期の見通しについては、慎重ながらも楽観的な見方を取っています。

本資料はクレディ・スイス・グループが発表したメディアリリースの翻訳版(要旨)です。メディアリリースの正確な内容は、クレディ・スイス・グループの[ウェブサイト](#)に掲載されたオリジナル版をご参照ください。